

聖隷クリストファー大学

Community-Based Practice and
Research Center for Health and Welfare

保健福祉実践開発研究センター 年 報

地域貢献事業研究 報告書

第9号
2017



聖隷クリストファー大学
保健福祉実践開発研究センター

ごあいさつ

聖隷クリストファー大学保健福祉実践開発研究センター年報第9号(2017)の刊行にあたり、ご挨拶させていただきます。当センターの活動は、2018年度現在で10年目に入っており、当年報では2017年度の実績を報告しております。本学は、建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、保健医療福祉の未来を創造する教育・研究・実践のフロンティア大学として、2018年1月に浜松市との間で「包括連携に関する協定」を締結しました。詳しくはP.9にて紹介していますのでご覧ください。

地域の実践現場と共同で行う研究に重点を置き、その研究成果を地域へ還元することを目的にした2017年度の地域貢献事業研究費の採択数は2件でした。詳しい報告は当年報に掲載しております。また、研究成果の報告会は例年11月に行われます聖灯祭・ホームカミングデー同日にポスター形式で行っており、地域の皆様や卒業生にご覧いただくとともに、採択された研究代表者によるプレゼンテーションも行います。

公開講座につきましては、時勢やニーズに合ったテーマ設定をし、2017年度は公開講座を2回実施し、また初の試みとして公開web講座も実施しました。今後も高名な講師をお招きし、ご講演をお願いするとともに、テーマによっては本学教員も講師として登壇し、日ごろの研究成果等を地域へ還元し、地域の皆様のニーズに応えられる講座を開催していきます。

地域の専門団体、病院や施設、行政から当センターへの講師や委員等の派遣依頼は年々増加しており、地域で果たす本学の役割も拡大しています。教員が講師として派遣依頼に応じた実績は、ホームページでも公開しています。講師等の派遣につきましては、保健福祉実践開発研究センター事務局にお問い合わせください。

また、「政策形成への関与」を推進するため、自治体の専門委員や審議会委員を受託している教員が中心となり、学内サロンを2回開催いたしました。

2017年度から聖隷クリストファー大学は、保健医療福祉の未来を創造する教育・研究・実践のフロンティア大学として「未来創造躍進プラン」を定め、地域連携に関する2017～2021年度までの中期目標を「人々の幸福と健康及び地域の保健医療福祉の発展に貢献するため、地域の保健医療福祉の基幹大学としての自治体等の地域社会・施設等との連携体制を作り、地域での教育・研究・実践を推進する」といたしました。2018年度からは大学の最重要課題のひとつとして「地域連携体制の構築」を掲げ、1)「(仮)聖隷クリストファー保健医療福祉市民大学」開講、2)自治体政策会議への参画、3)自治体、企業、病院施設、他大学等との連携体制(プラットフォーム)の形成、4)東京パラリンピックへの参画に取り組めます。また、昨年度までの地域貢献事業研究費を、「地域連携事業研究費」へと名称及び内容を見直し、地域連携が更に推進するように変更いたしました。

これからも保健福祉実践開発研究センターは、地域の皆様から必要とされ、“地域と歩む”実践・研究・地域連携を続けて参る所存です。皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2018年11月

聖隷クリストファー大学
保健福祉実践開発研究センター
センター長 大場 義貴

目 次

I. 2017 年度事業報告

1. 地域貢献事業研究 課題一覧	1
2. 公開講座	5
3. 浜松市との連携	9
4. 研修会講師等派遣	11
5. 保健医療福祉団体の委員等派遣	17
6. 資 料	20

II. 2017 年度地域貢献事業研究 報告書 31

保健福祉実践開発研究センター運営会議 委員一覧

1. 地域貢献事業研究 課題一覧

当センターでは、本学周辺地域の保健医療福祉分野に貢献する事業研究を対象として『地域貢献事業研究費』を配分しています。2017年度は計2件(区分A:2件、区分B:0件)、計511,572円の申請があり、保健福祉実践開発研究センターによる審査の結果、2件の課題を採択し、計380,031円の事業研究費を配分しました。

(区分)

A:本学周辺地域の保健医療福祉の向上を目的とし、地域の保健医療福祉の実践現場と共同で行う研究

B:本学周辺地域の保健医療福祉の向上を目的とし、地域との基盤作りとしての事業に関する共同研究

所属	研究代表者	職位	区分	研究課題	対象地域	配分額 (円)	実施 状況
リハビリ テーション学部 言語聴覚学科	柴本 勇	教授	A	ことばの教室担当教諭への 専門的研修が指導に与える 効果	浜松市	323,125	報告 P.33 参照
社会福祉学部 こども教育 福祉学科	鈴木 光男	教授	A	重症心身障害者や幼児教育 現場における芸術療育・ 療法の実践事例研究	浜松市・磐田市を 中心とした静岡県 西部地域	56,906	未実施
合計						380,031	

<地域貢献事業研究 報告会>

2016年度に地域貢献事業研究費の配分を受け実施された事業研究の報告会を下記日程で開催しました。

日時:2017年11月4日(土) 10:00～15:00 ※聖灯祭・ホームカミングデーと同日開催

場所:聖隷クリストファー大学1号館2階 1222・1223 演習室

発表:ポスター発表および口頭発表 来場者数:265名

2017 年度「地域貢献事業研究費」の募集について

保健福祉実践開発研究センター「地域貢献事業研究費」について、下記の要領で研究計画を募集します。

1. 基本方針

保健福祉実践開発研究センターの柱のひとつである「保健医療福祉分野に係るすべての人たちとの共同研究・事業」を推進し、共同で課題解決を図るために、本学周辺地域の保健医療福祉分野に貢献する研究を対象とした事業研究費を募集します。

2. 対象となる研究および事業研究費の金額

本学周辺地域の保健医療福祉の向上を目的とし、

A：地域の保健医療福祉の実践現場と共同で行う研究

B：地域との基盤作りとしての事業に関する共同研究

- ・実習先・就職先施設等と連携した研究であればなお望ましい。
 - ・研究費の配分総額は 130 万円、1 件当たり最大 40 万円です（共同研究費とは上限額が異なります）。なお、地域貢献事業研究費の総額は、並行して募集する共同研究費の申請状況も考慮し、大学全体の研究費予算の枠内で柔軟に対応していきます。
- （配分総額は、2017 年度予算決定をもって確定しますので、変わる可能性があります）

3. 研究対象期間

2017 年 4 月 1 月～2018 年 3 月 31 日

4. スケジュール

募集告知	1 月 11 日（水）
研究計画の受付	2 月 13 日（月）～3 月 13 日（月）17 時まで
保健福祉実践開発研究センター運営会議〈定例〉 （申請状況の報告／審査要領の確認）	3 月 22 日（水）
保健福祉実践開発研究センター運営会議開催〈必要があれば臨時で〉 （要領等を大きく逸脱した申請課題があった場合の対応の検討）	4 月 3 日（月）～4 月 12 日（水）
審査期間	
保健福祉実践開発研究センター運営会議開催〈定例 or 臨時〉 （配分案の検討）	4 月 19 日（水）～4 月 25 日（火） ※できるだけ遅い月日で設定
部長会で配分案決定	5 月 9 日（火）
配分結果通知、執行可能※	5 月 10 日（水）
執行役員会に配分結果を報告	5 月 19 日（金）

※人間を直接対象とする調査・研究は全て倫理審査の「承認」が必要となります。この場合、倫理審査の承認後から執行可能となります。

5. 申請期限

3月13日(月) 17時

- ・研究計画書は、必ず保健福祉実践開発研究センターメールアドレス「health-science@seirei.ac.jp」へ申請期限までにメールでご提出ください。申請期限以降は、原則として提出データの修正・差し替えはできません。
- ・迷惑メール自動振分機能等による受付け漏れを防ぐため、メール受信の翌日中(土・日曜、祝祭日を挟む場合はその翌日)に受付け完了のメールを返信します。返信がない場合には総務部担当者(諏訪部、黒田)へご連絡ください。

6. 申請における注意事項

- ・研究組織については、共同研究費取り扱い要領の「6. 研究組織」を参照の上、研究代表者が研究分担者および研究協力者と相互に確認をした後、研究計画書の該当欄に記載をしてください。また、研究計画書は、代表者が、研究分担者および研究協力者に内容についての合意を得た上で提出してください。
- ・なお、研究分担者として記載された学外者については、申請期限(3月13日)までに本学が指定する次の4項目のコンプライアンス教育の受講等を済ませていることを申請の条件とします。

①講義(コンプライアンス研修会)映像の視聴、②倫理委員会主催の研修会映像の視聴
③ CITI Japan e-ラーニングプログラムの履修、④「科学の健全な発展のために」の通読
- ・申請できる経費等の詳細は、「共同研究費取り扱い要領」の「7. 申請できる経費」に準じますのでご確認ください。取り扱い要領に定められた内容に違反した場合は配分対象にならない場合がありますのでご注意ください。
- ・配分された研究費の執行は、部長会で配分案が決定し、配分結果を通知した後からとなります。なお、人間を直接対象とする調査・研究の場合は、全て倫理審査の「承認」が必要となるため、配分結果の通知後で且つ倫理審査の承認を得た後から執行可能となります。通知前(倫理審査が必要な場合は、倫理審査の「承認」前)の執行は認められませんのでご注意ください。
- ・研究計画書の経費内訳欄には、できるだけ具体的な積算根拠を記載してください。算出根拠の未記入等、記載内容に不備があった場合は、該当経費は配分対象にならないことがあります。
- ・限られた予算を有効に配分するため、既に研究室に備えられているパソコン、プリンター、総務部で貸出をしているデジカメ、ビデオカメラ、ICレコーダー等の申請はできるだけご遠慮ください。特別な事情により申請をする場合は、計画書に申請理由を添付してください。
- ・単年度の研究を対象とした研究費ですが、仮に研究が複数年に渡る計画の場合は、下記のとりの取り扱いとします。

初年度	1) 研究の全体計画(様式自由/A4サイズ縦1枚以内)を添付してください。 2) 研究計画書には、全体計画を踏まえ、申請年度の計画を具体的に記述してください。 3) 研究計画書の「研究の背景と目的」の冒頭部分に必ず「研究が複数年に渡る計画(*年計画の初年度)」である旨を記載してください。
2年目以降	1) 初年度に提出した研究の全体計画を添付してください。 2) 研究計画書には、全体計画および前年度までの研究成果を踏まえた、申請年度の計画を具体的に記述してください。 3) 研究計画書の「研究の背景と目的」の冒頭部分に必ず「研究が複数年に渡る計画(*年計画の*年目)」である旨を記載してください。

※これらが踏まえていない申請の場合、研究費の配分は一切できません。また、初年度に採択された場合であっても、2年目以降の採択を約束するものではありません。

7. 審査の方法

保健福祉実践開発研究センターは、配分案を検討するにあたり、申請された計画書に対して以下の項目を目安にして審査をします（A・Bそれぞれ15点満点。絶対評価）。

項 目	A	B
(1-A) 本学周辺地域の保健医療福祉の向上にどのように貢献できるか <5点満点>	○	—
(1-B) 本件が地域との基盤作り等である場合の将来展望 <5点満点>	—	○
(2) 研究計画・方法の妥当性 <5点満点>	○	○
(3) 申請経費の妥当性 <5点満点>	○	○

8. 研究成果の提出

・研究代表者は、研究期間内における研究課題の成果を取りまとめ、次の2種について2017年6月末日までに保健福祉実践開発研究センターに提出してください。

①研究成果報告書（A4版サイズ、3～4枚程度／保健福祉実践開発研究センター年報等に掲載）

②一般向けの抄録（A4版サイズ、1枚／保健福祉実践開発研究センターHP等に掲載）

・研究代表者は、保健福祉実践開発研究センターが企画する報告会等で発表する義務を負います。

※関連書類

①聖隷クリストファー大学共同研究費取り扱い要領【参考】

②2017年度 地域貢献事業研究費 研究計画書

③研究分担者のコンプライアンス教育の実施について

2. 公開講座

当センターでは、一般の方および保健医療福祉専門職の方を対象とした公開講座を毎年度開催しています。時勢やニーズに合わせたテーマ、また地域の専門職からの要望の高いテーマを取り上げ、2017年度は公開講座2回と、公開web講座1回を実施しました。

1 公開講座①

1. 概要

タイトル：介護福祉実践とスピリチュアルケア～介護福祉の奥深さ、幅広さ、魅力を再発見する～

日時：2017年7月29日(土) 13時00分～15時00分

講師：佐々木炎氏(NPO法人ホッとスペース中原代表理事、主任介護支援専門員、牧師)

対象：一般の方

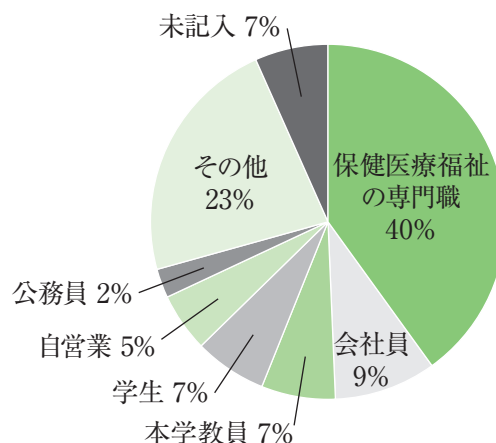
参加者：75名(定員100名)

アンケート回収：62件

2. 参加者職業内訳(合計75名)

保健医療福祉の専門職	30
会社員	7
本学教員	5
学生	5
自営業	4
公務員	2
その他	17
未記入	5

介護福祉士、社会福祉士、
精神保健福祉士、看護師、
生活支援員、医師等



3. アンケート結果

設問1 参加しようと思った理由、目的は何ですか？

「スピリチュアルケアとはどのようなものか興味があったので」、「介護の奥深さ、魅力について知りたかった」など、講座のテーマに関心があり参加された方が大半を占めた一方、「家族の介護をする上で参考になればと思ったので」、「日々の業務の中で活かせることがあればと思ったので」といった日常へのヒントを求めて参加された方もいらっしゃいました。

設問2・3 目的は達成できましたか？ その理由

94%の方が「大いに達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答しました。理由としては、「具体例を通してスピリチュアルケアの本質を理解することができた」、「行為としての介護に追われ忘れていた寄り添う気持ちを思い出すことができた」、「介護を実践する日々を励まされ、勇気づけられる内容だった」という好意的なコメントを多くいただきました。

設問4 今回のセミナーの感想

「介護に関わる人間としてこれからの実践をしていかなければならないことを学ばせてもらった」、「困っている人を見つけたらその人と一緒に悩んであげる大切さを知った」など、多くのことを学び取っていただけたようでした。また、「明るくて元気な講師で、話の展開・テンポが良かった」、「聞くというよりも会場全体が参加する形の講座だったのが良かった」という意見も寄せられました。



公開講座の様子

2 公開講座②

1. 概要

タイトル：「がんとともに、その人らしく生きる」を支える

日 時：2017年11月18日（土）13時30分～16時30分

講 師：看護学部 井上菜穂美准教授

シンポジスト：大木純子氏（聖隷三方原病院 がん看護専門看護師）

島田綾子氏（聖隷浜松病院 社会福祉士）

木村幸子氏（訪問看護ステーション三方原 緩和ケア認定看護師）

対 象：一般の方

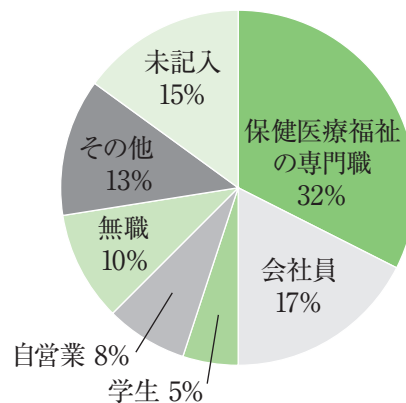
参加者：40名（定員100名）

アンケート回収：31件

2. 参加者職業内訳（合計40名）

保健医療福祉の専門職	13
会社員	7
学生	2
自営業	3
無職	4
その他	5
未記入	6

看護師、相談員、介護福祉士、介護職、精神保健福祉士等



3. アンケート結果

設問 1. 参加しようと思った理由、目的は何ですか？

「身内にがん患者がおり、どのようなサポートをしていけるか知りたかった」、「自分のがん患者で、今後の生活の参考になればと思い」という当事者やその家族に多く参加いただきました。また、「がん患者と関わる仕事をしているので参考になればと思い」という方や「二人に一人のがんになる時代となり、がん患者になった場合の生き方、考え方、心構えについて考える機会としたいと思ったので」という今後に備えてという方にも参加いただきました。

設問 2・3 目的は達成できましたか？ その理由

57%の方が「大いに達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答しました。理由としては、「がんに関する国の施策や最新の情報が得られてよかった」、「がん患者やその家族に対する支援が充実していることを知り、一人で悩まなくてもよいのだと思った」という意見が多く寄せられました。一方で、「制度が整っているのはわかったが、それらの周知が不十分である」、「がん患者に関わる現場で役立つことが聞けるといった」、「MSWとしての関わりについてもっと聞きたかった」という意見も寄せられました。

設問 4 今回のセミナーの感想

「がん患者、サバイバーとして希望が持てるお話が多かった」、「がんと診断される前の心構えができた」という意見や、「新しいシステム、情報を得ることができてよかった」、「就労支援については今後の職場内でのアドバイスを役立つ」という感想をいただきました。また、「シンポジウムの時間を多めにいただきたい、より具体的な意見を伺いたかった」「もっと事例などがあったら嬉しい」という内容・進行に関する意見も寄せられました。



シンポジウムの様子

3 公開 web 講座

タイトル：公開 web 講座「加齢と自動車運転」

公開方法：YouTube（限定公開）による動画配信

第 1 回：法制度と自動車運転

公開期間：2017 年 8 月 28 日から 2018 年 1 月 31 日

講師：リハビリテーション学部作業療法学科助教 建木健

再生回数：272 回

第 2 回：身体機能と自動車運転

公開期間：2017 年 9 月 1 日から 2018 年 1 月 31 日

講師：リハビリテーション学部理学療法学科准教授 吉本好延

再生回数：224 回

第 3 回：認知機能と自動車運転

公開期間：2017 年 10 月 2 日から 2018 年 1 月 31 日

講師：リハビリテーション学部言語聴覚学科教授 佐藤順子

再生回数：114 回

3. 浜松市との連携

1 包括連携に関する協定の締結

2018年1月9日、本学は地域の保健医療福祉の発展に資する大学として、その役割を果たしていくビジョンのもと、浜松市との連携協力が一層強化・推進されるよう包括連携に関する協定を結びました。

これまでも本学は浜松市と様々な連携をしてきましたが、今回の協定では、(1) 地域の保健医療福祉の振興に関すること、(2) 教育及び人材育成に関すること、(3) 保健医療福祉分野の学術研究に関すること、(4) 共生社会実現に向けた地域社会の推進に関すること、(5) 本協定の目的を達成するために必要な活動、調査研究、報告などの連携協力事項について、既存の連携事業に新たな事業を加え推進していく予定です。



協定書にサインをする鈴木康友浜松市長（左）、大城昌平学長（右）

2 浜松市と大学との連携事業～大学生による講座 2017年度実施報告

浜松市では、市民と大学生が生涯学習を通じて自分の成長や能力の向上を図る学習活動（生涯学習）を推進し、その学びの成果を地域づくりにつなげていくことを目的に、「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」を行っています。本事業では大学生が講師となり、協働センターなど生涯学習施設で市民の方々を対象にした講座を行います。本学は2017年度より当連携事業に参加し、年間で12回の講座を実施し、述べ298人の市民の方々に参加いただきました。2018年度も継続して本事業に参加しています。

講座名	対象	担当学科	開催日	会場	参加者
自分の体力を調べてみよう！ ～体の仕組みについて～	小中学生	理学療法学科	2017.12.6	亀玉協働センター	26
			2017.12.23		29
脳トレや体操に取り組んで心も体も 元気に！～健康寿命を延ばすには～	高齢者	理学療法学科	2017.11.8	竜川ふれあいセンター	25
			2017.11.10	県居協働センター	21
認知症予防 “海馬を鍛えよう!!”	高齢者	作業療法学科	2017.10.7	富塚協働センター	27
			2017.10.11	熊ふれあいセンター	24
健康寿命は食にあり！ —食事の安全な摂り方を知ろう—	高齢者	言語聴覚学科	2017.10.11	三方原協働センター	19
			2017.11.10	佐鳴台協働センター	31
			2017.12.13	天竜協働センター	22
			2017.12.19	蒲協働センター	15
トリック・オア・トリート ～お化けに変身～	幼児・ 小学生	こども教育 福祉学科	2017.10.21	水窪文化会館	34
音楽でつなごう友達の輪	乳幼児～ 小学校低学年	こども教育 福祉学科	2017.12.2	神久呂協働センター	25

3 浜松市との共働可能性を探るサロン 実施報告

本学と浜松市との連携を推進するために、教員間で自由に意見交換を行う場として 2016 年度より「浜松市との共働可能性を探るサロン」実施しています。2017 年度は 2 回のサロンを通して、本学の各教員が浜松市とどのような関わりを持っているかを共有し、課題について話し合いを行いました。

第 2 回浜松市との共働可能性を探るサロン

日時：2017 年 10 月 11 日

テーマ：浜松市との連携に関する情報交換

参加者：24 名

第 3 回浜松市との共働可能性を探るサロン

日時：2017 年 12 月 26 日

テーマ：浜松市との連携に関する現状把握と課題抽出

参加者：21 名



サロンの様子

4. 研修会講師等派遣

当センターが窓口となり、静岡県内で実施した講師等派遣の一覧です。

※合計 67 件／担当教員の所属・職位は 2017 年度当時

専門職対象

No	主催	内容	担当
1	聖隷三方原病院	聖隷三方原病院認定看護管理者教育課程ファーストレベル 科目名：看護専門職論 単 元：看護専門職の役割と機能 対 象：看護師	看護学部 鶴田恵子 教授
2	静岡市立静岡病院	看護管理者に対する研修会 テーマ：看護管理から看護マネジメントへの発送転換 対 象：看護部長、看護科長、看護師長、副看護師長	看護学部 鶴田恵子 教授
3	静岡県訪問看護 ステーション協議会	平成 29 年度 ELNEC-G コアカリキュラム看護師教育プログラム テーマ：エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題 対 象：静岡県東部の訪問看護ステーションに所属する看護師	看護学部 森 一恵 教授
4	公益社団法人 静岡県看護協会	平成 29 年度地区別施設看護管理者交流会 テーマ：看取りケアにおける施設看護師の役割について 対 象：看護管理者	看護学部 大村光代 教授
5	公益社団法人 静岡県看護協会	平成 29 年度高齢者権利擁護等推進事業 看護実務者研修 テーマ：看取りケアの推進 対 象：介護施設に従事する看護職	看護学部 大村光代 教授
6	ヤマハ発動機株式会社	高齢者の雇用促進に関する環境整備のための管理監督者研修 テーマ：60 歳代社員への配慮に関する加齢変化の理解 対 象：製造・技術職場の管理監督者	看護学部 大村光代 教授 仲村秀子 准教授
7	静岡県西部保健所	平成 29 年度新任期地域保健従事者研修会 テーマ：対象者理解と個別支援 対 象：地域保健に従事して 1～3 年目の静岡県西部管内職員及び西部健康福祉センター職員	看護学部 若杉早苗 助教
8	牧之原市政策協働部 企画政策課	地域リーダー育成プロジェクト テーマ：高校生・大学生・大人が参加しての「学びあいの場」ハーベストイングシートの作成 対 象：榛原高校生・相良高校生・県内外大学生・大人	看護学部 若杉早苗 助教
9	静岡大学	教員免許状更新講習 テーマ：養護教諭の専門性とその成長 対 象：養護教諭	看護学部 高橋佐和子 助教
10	浜松市こども家庭部 次世代保育課	家庭教育講座 テーマ：今日からスタート！忙しいママにもできるわが子の早寝・早起き朝ごはん 対 象：保護者	看護学部 伊藤純子 助教 高橋佐和子 助教

No	主催	内容	担当
11	浜松市こども家庭部 次世代育成課	家庭教育講座 テーマ：健康力で幸せになれる子を育てよう —できるよになるコツ教えます— 対 象：育児休暇中の保護者（遠州鉄道株式会社、 株式会社第一印刷）	看護学部 伊藤純子 助教 高橋佐和子 助教
12	沼津市立大岡小学校	健康教育 テーマ：生活習慣（特に睡眠）の改善 対 象：5・6 年児童及び希望する保護者	看護学部 伊藤純子 助教 高橋佐和子 助教
13	沼津市立大岡小学校	労働安全衛生研修会 テーマ：教職員のアンガーマネジメント力を高める 対 象：教職員	看護学部 伊藤純子 助教 高橋佐和子 助教
14	浜松市立浜北北部中学校 浜松市立引佐南部中学校 島田市立島田第一中学校 島田私立島田第二中学校	性に関する指導 テーマ：大人の世界に羽ばたく君たちへ 対 象：生徒、保護者、教職員	看護学部 伊藤純子 助教 高橋佐和子 助教
15	浜松市立新津小学校・ 中学校	学校保健委員会 テーマ：自分も相手も大切にしよう 対 象：小学 5 年生、中学 1 年生、教職員、 保護者代表、学校医	看護学部 伊藤純子 助教 高橋佐和子 助教
16	浜松市立三方原小・中学校 浜松市豊岡小学校	学校保健委員会 テーマ：心と体 元気ですか～睡眠について考えよう～ 対 象：小学 5・6 年児童、中学全校生徒、教職員、 PTA 役員	看護学部 伊藤純子 助教 高橋佐和子 助教
17	浜松市西区民生委員 児童委員協議会高齢者 福祉部会	西区民児協高齢者福祉部会公開講座 テーマ：増大する高齢者の課題と対応 対 象：西区民生委員	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
18	地域包括支援センター 北遠中央	地域ケアマネジャー演習事業 テーマ：地域包括ケアの視点 対 象：天竜区内の居宅介護支援事業所の ケアマネジャー	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
19	浜松市社会福祉協議会 浜松地区センター	平成 29 年度関係機関連絡協議会 テーマ：小地域福祉活動とは何か、小地域福祉 活動の必要性について 対 象：中区地区社会福祉協議会、行政職員等	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
20	静岡県自治会連合会 西部支部	静岡県自治会連合会西部支部研修会 テーマ：高齢化社会における自治会の役割 対 象：県自治会連合会西部支部管内の自治会長	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
21	静岡県立・私立高校事例 研究会 浜松市きらめき研究会	研修会 テーマ：子どもの貧困と虐待 対 象：市内小・中学校、高等学校養護教諭	社会福祉学部 社会福祉学科 石川瞭子 教授
22	磐田ケアマネ連絡会	磐田ケアマネ連絡会 研修会 テーマ：対人援助技術について 対 象：磐田ケアマネ連絡会会員	社会福祉学部 社会福祉学科 福田俊子 准教授

No	主催	内容	担当
23	聖隷福祉事業団 相談人材育成委員会	相談支援を主たる業務とする職員向け研修 テーマ：スーパービジョンの理論と実際 対 象：法人内相談支援スキルラダー申請レベルⅢ 及びⅣ	社会福祉学部 社会福祉学科 福田俊子 准教授
24	御前崎市健康福祉部 高齢者支援課	居宅介護支援専門員の資質向上のための事例検討 対 象：介護支援専門員等	社会福祉学部 社会福祉学科 川向雅弘 准教授
25	浜松市北区役所 長寿保険課	北区事業者情報交換会 テーマ：地域を基盤とする多職種連携のあり方 対 象：北区内介護保険サービス事業者、 医療相談室、北区民生委員等	社会福祉学部 社会福祉学科 川向雅弘 准教授
26	浜松市健康福祉部 障害保健福祉課	浜松市障がい者自立支援協議会 研修会 テーマ：障がい者自立支援連絡会に期待すること― 「地域生活支援」と「暮らし」の視点 対 象：市職員・協議会構成員	社会福祉学部 社会福祉学科 川向雅弘 准教授
27	浜松市民生委員 児童委員協議会	平成 29 年度中堅委員研修会 テーマ：今日の福祉問題の把握方法～援助困難な人 への初期対応 対 象：2 期目以上の委員	社会福祉学部 社会福祉学科 川向雅弘 准教授
28	浜松市 浜松手をつなぐ育成会	青少年福祉ボランティアリーダー育成研修会 テーマ：思春期・青年期のメンタルヘルス 対 象：高校生以上の学生	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
29	浜松市西区 地域包括支援センター	ケアプラン作成研修会 テーマ：アセスメント・ケアプランについて 対 象：西区内の居宅介護支援事業所に勤務する ケアマネージャー	社会福祉学部 社会福祉学科 村上武敏 助教
30	高齢者相談センター 三方原	三方原地域介護支援専門員演習事業 テーマ：生活アセスメント～制度的限界をどう超えるか 対 象：居宅介護支援事業所、地域包括支援センター 職員	社会福祉学部 社会福祉学科 村上武敏 助教
31	富士宮市社会福祉協議会	平成 29 年度成年後見制度推進事業 テーマ：地域で支える成年後見 地域を支える市民 後見人 対 象：地域住民・専門職者	社会福祉学部 介護福祉学科 横尾恵美子 教授
32	島田市健康福祉部 長寿介護課	平成 29 年度島田市介護支援専門員研修会 テーマ：自立支援に向けた介護予防ケアマネジメント について 対 象：島田市内事業所の介護支援専門員、 地域包括支援センター職員	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
33	袋井市介護保険研究会	全体研修会 テーマ：これからの自立支援介護 対 象：介護保険研究会会員	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
34	社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	平成 29 年度静岡県福祉合同入職式記念講演 テーマ：みんなで創造 これからの福祉実践 対 象：静岡県内の福祉施設等に平成 30 年 4 月から の採用が内定している方	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授

No	主催	内容	担当
35	静岡県立磐田北高校	講演会 テーマ：各国における最新の介護福祉の実践について学び、グローバルな視点を養う 対 象：福祉課生徒	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
36	磐田市民生委員 児童委員協議会	高齢者福祉部会全体研修 テーマ：在宅医療と介護の連携について 対 象：磐田市民生委員児童委員高齢者福祉部会委員	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
37	静岡県立浜松西高等学校	PTA 総会での講演 テーマ：「介護」について 対 象：浜松西高等学校保護者	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
38	一般社団法人 静岡県介護福祉士会	技能実習指導員講習会 テーマ：技能実習生の受け入れの留意点 対 象：技能実習指導員	社会福祉学部 介護福祉学科 野田由佳里 教授
39	特定活動非営利法人 静岡県介護支援専門員 協会	平成 29 年度第 1 回西部支部研修 テーマ：「伝えること」の意味～相手に意図が 伝わっていますか？～ 対 象：介護支援専門員	社会福祉学部 介護福祉学科 野田由佳里 教授
40	社会福祉法人七恵会	主任・フロアリーダー研修 テーマ：部下の目標管理を達成するためのスキルを学ぶ 対 象：法人内の主任・フロアリーダー	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
41	社会福祉法人斉慎会 特別養護老人ホーム 西之島の郷	ユニットリーダー研修 テーマ：スーパービジョンについて 対 象：ユニットリーダー	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
42	一般社団法人 静岡県社会福祉士会	実践研究セミナー テーマ：実践研究とは 対 象：静岡県社会福祉士会会員	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
43	中東遠地区職種別研究会	中東遠地区職種別研究会（相談員） テーマ：生活相談員の役割について 対 象：各施設生活相談員	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
44	静岡県社会福祉協議会 静岡県社会福祉人材 センター	平成 29 年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース（中部 3） テーマ：福祉職員としての能力開発・組織運営管理・ 業務課題の解決と実践研究・リスクマネジメント・ チームアプローチと多職種連携・地域協働 対 象：静岡県中部地区福祉専門職	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
45	浜松市西区 地域包括支援センター	平成 29 年度西区地域包括支援センター権利擁護 研修会 テーマ：成年後見制度を知ろう ～成年後見制度を活用する為に～ 対 象：西区内の居宅介護支援事業所に勤務する ケアマネジャー	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
46	浜松市こども家庭部	平成 29 年度保育士再就職支援研修会 テーマ：保育環境を通しての保育とは 対 象：保育職に就いていない有資格者	社会福祉学部 こども教育福祉学科 太田雅子 教授

No	主催	内容	担当
47	浜松市ファミリー・サポートセンター	スキルアップ講習会 テーマ：初めて会う子、顔なじみの子 それぞれのコミュニケーション 対 象：まかせて・どっちも会員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 坂本道子 教授
48	磐周教育研究所	ソフィア発見講座 テーマ：視点を変えると人生が変わる ～転職、そして国際交流・支援を経て～ 対 象：磐田市、袋井市、森町を中心とした教員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
49	磐田市立磐田中部小学校	コミュニ寺子屋（教育講演会） テーマ：つながり格差と学力格差 対 象：保護者・学校協議員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
50	静岡県	放課後児童支援員認定資格研修 テーマ：学校・地域との連携 対 象：放課後児童支援員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
51	磐田市立磐田中部小学校	総合的な学習の時間のキャリア教育授業 テーマ：ようこそ、まちなか先生 対 象：小学6年生	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
52	浜松市教育委員会	平成 29 年度保育活動研修 テーマ：発達が気になる子も育つ発育発達過程に沿った運動遊び 対 象：幼稚園教諭、小中学校教員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 和久田佳代 准教授
53	浜松医療センター リハビリテーション科	学生に対する臨床実習指導におけるクリニカルクラークシップの実践を目的とした講義①基礎的な内容②臨床場面を想定しての実践的な内容③特に応用的な内容 対 象：理学療法士	リハビリテーション学部 理学療法学科 俵 祐一 准教授 金原一宏 准教授 矢部広樹 助教
54	医療法人社団三誠会 北斗わかば病院 リハビリテーション部	リハビリテーション部勉強会 テーマ：臨床実習におけるクリニカルクラークシップの実践（実践編） 対 象：北斗わかば病院職員	リハビリテーション学部 理学療法学科 吉本好延 准教授
55	医療法人光生会赤岩病院	リハビリテーション部勉強会 テーマ：臨床実習におけるクリニカルクラークシップの実践（実践編） 対 象：赤岩病院職員	リハビリテーション学部 理学療法学科 吉本好延 准教授
56	公益社団法人 静岡県理学療法士会	平成 29 年度新人教育プログラム研修会 テーマ：クリニカルリーズニング 対 象：新人理学療法士	リハビリテーション学部 理学療法学科 吉本好延 准教授
57	静岡県こどもの精神保健 フォーラム	第 27 回静岡県こどもの精神保健フォーラム テーマ：シンポジウム「様々な現場における合理的配慮の実践」 対 象：教育関係、心理、保育、行政等	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 准教授
58	静岡県立 浜松特別支援学校	特別支援教育講座 テーマ：児童生徒の発達支援と教員指導 対 象：児童生徒、教員	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 准教授

No	主催	内容	担当
59	静岡大学	教員免許状更新講習 テーマ：作業療法からみた発達障がい理解と支援 対 象：教員	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 准教授
60	カウンセリング・マインド を学ぶ会	研修会 テーマ：気になる子どもの理解と支援 ～感覚統合の視点から～ 対 象：市内小・中学校教職員	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 准教授
61	静岡県立 浜松特別支援学校	特別支援教育講座 テーマ：児童生徒の発達支援と教員指導 対 象：児童生徒、教員	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 准教授
62	浜松市立幼稚園長会	平成 29 年度浜松市立幼稚園長会自主研修会 テーマ：発達が気になる子どもの育ちと支援、 保護者支援を考える～ OT の立場から～ 対 象：浜松市立幼稚園 園長	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 准教授
63	浜松市健康福祉部 障害保健福祉課	手話奉仕員養成講座入門課程 テーマ：聴覚障害者の基礎知識 対 象：一般市民	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 石津希代子 准教授
64	静岡県言語・聴覚・ 発達障害教育研究会	第 2 回静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会研修会 テーマ：音韻意識の弱い子どもの構音・言語機能の 発達 対 象：静岡県内 通級指導教室及び幼児ことばの 教室担当者	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 中村哲也 助教
65	こうのとりの保育園	職員研修会 テーマ：言語検査について 対 象：看護師、保育士	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 中村哲也 助教
66	浜松市中区役所 健康づくり課	第 2 回食育ボランティア中区研修会 テーマ：摂食嚥下の基礎を学ぼう 対 象：中区内の食育ボランティア会員	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 佐藤豊展 助教
67	浜松市 ことばを育てる親の会	ペアレント・トレーニング 対 象：ことばの教室に通う保護者	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 木原ひとみ 助教

5. 保健医療福祉団体の委員等派遣

※合計 35 件／担当教員の所属・職位は 2017 年当時

No	内容	担当
1	治験審査委員会 外部委員 任期：2016 年 5 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：聖隷三方原病院	看護学部 熊澤武志 教授
2	浜松市建築審議会 委員 任期：2016 年 9 月 1 日～2018 年 8 月 31 日 主催：浜松市（都市整備部建築行政課）	看護学部 仲村秀子 准教授
3	静岡県専任教員養成講習会運営委員会 委員 任期：2016 年 9 月 16 日～2018 年 3 月 31 日 主催：静岡県看護協会	看護学部 檜原理恵 准教授
4	浜松市母子保健推進会議 委員 任期：2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市	看護学部 神崎江利子 講師
5	事務事業評価外部評価委員会 委員 任期：2017 年 9 月 22 日 主催：浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
6	地区社協のあり方検討委員会 委員 任期：2017 年 10 月より 3 回程度 主催：浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
7	公益信託スクロール女性ボランティア基金運営委員会 委員 任期：2018 年 2 月 1 日～2020 年 3 月 31 日 主催：株式会社静岡銀行（受託者）	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
8	浜松市障害者虐待防止対策支援事業 アドバイザー 任期：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市健康福祉部障害保健福祉課	社会福祉学部 社会福祉学科 川向雅弘 准教授
9	磐田市障害者施策推進協議会 任期：2017 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日 主催：磐田市健康福祉部福祉課	社会福祉学部 社会福祉学科 川向雅弘 准教授
10	平成 29 年度浜松市発達障害児者支援協議会 委員 任期：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市こども家庭部子育て支援課	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
11	平成 29 年度浜松市不登校対策推進協議会 会長 任期：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市教育委員会	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
12	浜松市若者支援スーパーバイザー 任期：2017 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日 主催：浜松市こども家庭部次世代育成課	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
13	平成 29 年度浜松市就学支援委員会 委員長 任期：2017 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日 主催：浜松市教育委員会	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
14	思春期メンタルヘルス推進会議推進委員 任期：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市精神保健福祉センター（健康福祉部）	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授

No	内容	担当
15	社会福祉法人小羊学園 2017 年度職員研究発表会 審査員 日程：2018 年 2 月 24 日 主催：社会福祉法人小羊学園	社会福祉学部 社会福祉学科 佐々木正和 助教
16	運営推進会議 アドバイザー 日程：2017 年 9 月 19 日、2018 年 3 月 6 日 主催：社会福祉法人慶成会	社会福祉学部 社会福祉学科 村上武敏 助教
17	浜松市営住宅管理運営委員会 委員 任期：2017 年 7 月 1 日～2019 年 6 月 30 日 主催：浜松市都市整備部住宅課	社会福祉学部 社会福祉学科 村上武敏 助教
18	静岡県福祉サービス第三者評価推進委員会 委員 任期：2016 年 8 月 19 日～2018 年 8 月 18 日 主催：静岡県健康福祉部	社会福祉学部 介護福祉学科 横尾恵美子 教授
19	「成年後見制度の取組現状・ニーズ把握等」に関する実態調査研究 アドバイザー 日程：2017 年 5 月 1 日～30 日、7 月 1 日～30 日 主催：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会	社会福祉学部 介護福祉学科 横尾恵美子 教授
20	高齢者虐待防止支援事業 アドバイザー 任期：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市健康福祉部高齢者福祉課	社会福祉学部 介護福祉学科 横尾恵美子 教授
21	社会福祉法人小羊学園 2017 年度職員研究発表会 審査員 日程：2018 年 2 月 24 日 主催：社会福祉法人小羊学園	社会福祉学部 介護福祉学科 横尾恵美子 教授
22	浜松市福祉人材バンク運営委員会 委員 任期：2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
23	浜松市人権施策推進審議会 委員 任期：2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 主催：浜松市健康福祉部福祉総務課	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
24	静岡県身体拘束ゼロ作戦推進会議 委員 任期：2017 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日 主催：静岡県健康福祉部福祉長寿局	社会福祉学部 介護福祉学科 古川和稔 教授
25	静岡県社会福祉人材センター 保護者向け啓発資料検討委員会 委員 日程：2018 年 1 月 19 日 主催：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会	社会福祉学部 介護福祉学科 野田由佳里 教授
26	第 3 回静岡県高等学校介護技術コンテスト 審査員 任期：2017 年 7 月 28 日 主催：静岡県高等学校福祉教育研究会	社会福祉学部 介護福祉学科 野田由佳里 教授
27	社会福祉法人和光会 理事 任期：2017 年 6 月 1 日～2019 年 5 月 31 日 主催：社会福祉法人和光会	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教

No	内容	担当
28	社会福祉法人七恵会 評議員 任期：2017年4月1日～2019年3月31日 主催：社会福祉法人七恵会	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
29	社会福祉法人みどりの樹 評議員 任期：2017年4月1日～2020年6月 主催：社会福祉法人みどりの樹	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
30	社会福祉法人昴会 監事 任期：2017年6月23日～2019年6月 主催：社会福祉法人昴会	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
31	NPO 法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会 監事 任期：2017年6月27日～2019年6月26日 主催：NPO 法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
32	第三長上苑およびデイサービスセンター運営推進会議 委員 任期：2017年4月1日～2019年3月31日 主催：社会福祉法人七恵会	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
33	地域密着介護老人福祉施設運営推進会議 委員 任期：2016年4月1日～2018年3月31日 主催：聖隷福祉事業団特別養護老人ホーム和合愛光園	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
34	和合愛光園デイサービスセンター（認知症対応型通所介護）運営推進会議 委員 任期：2016年9月～2018年8月 主催：聖隷福祉事業団和合愛光園デイサービスセンター	社会福祉学部 介護福祉学科 落合克能 助教
35	浜松市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 児童虐待検証部会・児童処遇部会 臨時委員 任期：2017年4月16日～2019年4月15日 主催：浜松市こども家庭部子育て支援課	社会福祉学部 こども教育福祉学科 藤田美枝子 教授
36	浜松市若者支援スーパーバイザー 任期：2017年4月1日～2019年3月31日 主催：浜松市こども家庭部次世代育成課	社会福祉学部 こども教育福祉学科 藤田美枝子 教授

6. 資料

1 ニュースレター第9号(年1回発行)

発行：2017年6月 13,000部

内容：・センター長挨拶「保健医療福祉の基幹大学としての地域連携に向けて」

・地域と歩む研究紹介「生活者の視点で療養環境をデザインしよう！」

「災害時に住民同士が救護活動を主体的におこなうための地域づくり」

「小学生から始められる対話型・発見型の人権啓発研修を目指して」

「部活動による傷害から高校生の心身を守る」

・保健医療福祉団体の委員等派遣状況、研究支援実施状況

・2017年度公開講座のご案内

・2017年度地域貢献事業研究費 採択研究一覧

配布先：実習施設、就職施設、聖隷グループ、卒業生、同系他大学、臨床教授等、市内図書館・協働センターなど

2 チラシ制作

1. 公開講座の案内

種類	講座タイトル
公開講座	介護福祉実践とスピリチュアルケア ～介護福祉の奥深さ、幅広さ、魅力を再発見する～
公開講座	「がんとともに、その人らしく生きる」を支える
公開 web 講座	加齢と自動車運転

2. 2017年度地域貢献事業研究報告会の案内

3 専任教員が大会長等になっている学術大会等への協力・後援

学術大会等	大会長等	日程
2017 じゃんだらに い with あ～と de い～ら	大場 義貴 社会福祉学部准教授	2017 年 6 月 24 日

4 ホームページの更新

URL: <https://www.seirei.ac.jp/healthscience/>

大学ホームページ (<https://www.seirei.ac.jp/>) ⇒ 社会との連携 ⇒ 保健福祉実践開発研究センターからリンクしています。



1. 更新ページ

- ・トップページのデザイン
- ・地域貢献事業研究
2017年度地域貢献事業研究費採択課題一覧を掲載
- ・公開セミナー・公開講座
2017年度公開講座案内を掲載、インターネット申込フォーム
- ・講師・委員等の派遣
2017年度の講師・委員等の派遣実績を掲載

2. 当センターへの問い合わせ方法

ホームページに問い合わせフォームを設置していますので、ぜひご活用ください。

URL : <http://blg.seirei.ac.jp/healthscience/form.html>



地 域 と 歩 む

聖隷クリストファー大学
保健福祉実践開発研究センター
Community-Based Practice and Research Center for Health and Welfare

カテゴリー	保健福祉実践開発研究センターへの依頼
ニュース	共同研究事業へのご参加や、研究支援、講師派遣、専門団体等への委員の派遣等のご相談は、下記のリンク先のフォームに入力の上、送信してください。
ウェブページ	聖隷クリストファー大学 保健福祉実践開発研究センター 〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 TEL : 053-439-1400 FAX : 053-439-1406 <u>WEBからの申し込みはこちら</u>
保健福祉実践開発研究センター概要	
保健福祉実践開発研究センターの取り組みの方針	
講師・委員等の派遣	
保健福祉実践開発研究センターへの依頼	
地域貢献の研究紹介	
公開セミナー・市民公開講座	

電話でのお問い合わせ先：053-439-1400（大学代表）

地域と歩む

聖隷クリストファー大学
保健福祉実践開発研究センター

Community-Based Practice and Research Center for Health and Welfare

ニュースレター

News letter

2017.6
Vol.09



保健医療福祉の基幹大学としての地域連携に向けて

聖隷クリストファー大学保健福祉実践開発研究センター長
社会福祉学部社会福祉学科准教授 **大場 義貴**



聖隷クリストファー大学では、建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、保健医療福祉の総合大学として人材育成を行っています。本センターは、新学長のリーダーシップの下、2017～2021年度までの中期目標を「人々の幸福と健康及び地域の保健医療福祉の発展に貢献するため、地域の保健医療福祉の基幹大学としての自治体等の地域社会・施設等との連携体制を作り、地域での教育・研究・実践を推進する」とし、今年度は、1)「(仮)聖隷クリストファー保健医療福祉市民大学」開講準備 2)自治体政策会議への参画準備 3)東京パラリンピックへの参画の検討 を重点計画として取り組みます。また、引き続き、公開講座や地域貢献事業研究の実施、自治体の委員受託や保健医療福祉機関等への人材育成支援(出張セミナー・出前講座等)を行っています。

是非皆様に、本センターの諸活動をご理解・ご活用頂き、益々発展させて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

●目次●

- ◆ 保健福祉実践開発研究センター長挨拶
- ◆ “地域と歩む”地域貢献事業研究の紹介
 - 『生活者の視点で療養環境をデザインしよう!』
 - 『災害時に住民同士が救護活動を主体的におこなうための地域づくり』
 - 『小学生から始められる対話型・発見型の人権啓発研修を目指して』
 - 『部活動による傷害から高校生の心身を守る』
- ◆ 保健医療福祉団体の委員等派遣状況、研究支援実施状況
- ◆ 2017年度公開講座のご案内／2017年度地域貢献事業研究費採択一覧

●お知らせ●

地域貢献事業研究費2017年度報告会のご案内

2016年度に地域貢献事業研究費の採択を受けた事業研究4件のポスター発表を下記の通り開催します。聖灯祭・ホームカミングデーと同日開催です。ぜひお立ち寄りください。

日時 2017年11月4日(土) 10:00～15:00(予定)

場所 聖隷クリストファー大学

※詳細は保健福祉実践開発研究センターのホームページでご案内いたします。



2016年度報告会の様子

保健福祉実践開発研究センターとは

「地域と歩む」をキーワードに、保健医療福祉の実践現場との共同研究・共同事業、地域の専門職向けの研修や一般市民の方々への学習機会の提供、地域の自治体や専門分野に関わる団体への協力、地域に開かれた相談窓口等を通して、地域の保健医療福祉のさらなる質の向上に寄与するための活動に取り組んでいます。

地域貢献事業研究の紹介



『生活者の視点で療養環境をデザインしよう!』

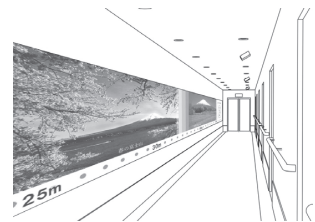
研究代表者 看護学部看護学科 准教授 炭谷 正太郎

- ◆ 共同研究者：[分担者]渡邊 真智子(聖隷三方原病院)
- ◆ 対象地域：総合病院聖隷三方原病院 高度救命救急センター

病院の中の環境は、治療を優先したデザインなのが現状です。例えば、心筋梗塞などの患者さんが行なう「心臓リハビリ」を実施するうえで必要な廊下の距離表示は、床に距離を示す数字が小さく貼られています。患者さんにとって達成感や温かみを感じるものではありません。私達は、デザイン分野の学問的な知識を用いてさまざまな課題に取り組む「デザイン思考」を活用して、廊下の距離表示をより合理的、魅力的にデザインしたいと考えました。

2017年3月、看護師、看護学部やデザイン学部の教員・学生、プロダクトデザイナーを集めてワークショップを開催しました。ブレインストーミングの手法を用いて22件のアイデアが創造されました。写真がその一例です。

療養環境に求められるのは、単に治療を行なうための合理性からデザインするのではなく、患者の生活者の視点からみた合理性を備えるべきだと思います。患者さんが温かみや励ましや達成感を感じることができる療養環境を、これからも追求していきたいと思います。



『災害時に住民同士が救護活動を主体的におこなうための地域づくり』

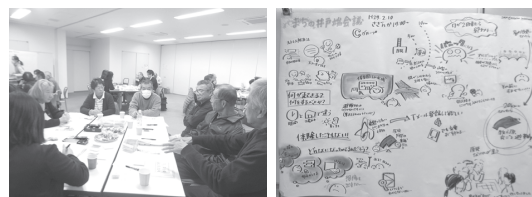
研究代表者 看護学部看護学科 助教 若杉 早苗

- ◆ 共同研究者：[分担者]川村佐和子(聖隷クリストファー大学)、鈴木知代(聖隷クリストファー大学)、仲村秀子(聖隷クリストファー大学)、伊藤純子(聖隷クリストファー大学)
- [協力者]古川馨子(牧之原市)、山口舞(牧之原市)、鈴木郁美(牧之原市)
- ◆ 対象地域：牧之原市

近年大規模な自然災害(地震、水害、津波など)や、放射線災害など従来になかった災害の発生により、自治体は平時のような厳格な組織体制を保つことができない事態に陥る場合も生じています。大震災が起きた時に、住民組織がどのように動いていけば、災害直後の混乱を乗り越えられるのか、このような災害発生時にこそ、住民同士が救護活動を主体的に行うことができるような、近隣住民同士の助け合いの精神(ソーシャルキャピタル)が必要です。

そこで第1部では、東日本大震災発生後の混乱期に、南相馬市立総合病院で救命医療をおこなった太田圭祐医師の実体験を伺う講演会(参加者116名)を開催し、第2部では、住民自ら災害発生時の支援活動について考え、どのように共同していくことができるか、『減災対策の井戸端会議』を開催しました。井戸端会議には、自主防災会や日赤奉仕団など、減災活動に関心のある住民26人(男性15人、女性11人)が参加し、自分達に「今できること」を考えました。

※2017年1月12日に開催した講演会については、牧之原市のHPでも紹介されています。
http://www.city.makinohara.shizuoka.jp/bg/kosodate_kyoiku/post-219.html



本学の教員は、保健医療福祉の専門分野の委員等として地域に貢献しています。

保健医療福祉団体の委員等派遣状況(2016年度)

静岡県福祉サービス第三者評価推進委員会 委員
 静岡県精神保健福祉士協会 養成校連絡会 委員
 浜松市母子保健推進会議 委員
 浜松市住宅管理運営委員会 委員
 浜松市建築審議会 委員
 浜松市住生活基本計画見直しに係る有識者会議 委員
 浜松市高齢者虐待防止支援事業 アドバイザー
 浜松市障害者虐待防止対策支援事業 アドバイザー
 浜松市発達障害児者支援推進会議 委員
 浜松市教育委員会 浜松市就学支援委員会 委員
 浜松市社会福祉協議会のあり方検討委員会 委員

浜松市社会福祉協議会 浜松市社会福祉人材バンク運営委員会 委員
 浜松市社会福祉協議会 コミュニティワーカー情報交換会 アドバイザー
 浜松市社会福祉協議会 事務事業評価 外部評価委員会 アドバイザー
 浜松市精神保健福祉センター 思春期メンタルヘルス推進会議 推進委員
 浜松市精神保健福祉センター 浜松市ひきこもり地域支援センター企画検討委員会 委員
 浜松地域若年者就労支援推進協議会 委員
 浜松市青少年育成センター 浜松市子ども・若者支援スーパーバイザー
 浜松市社会福祉審議会 委員
 浜松市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 委員
 浜松市精神保健福祉審議会 委員
 磐田中部小学校学校運営協議会 委員
 公益社団法人静岡県看護協会 まちの保健室 相談員
 社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷三方原病院 治験審査委員会 外部委員

当センターでは、本学周辺地域の保健医療福祉分野に貢献する事業研究を対象として「地域貢献事業研究費」を配分しています。2016年度に採択された4件の研究をご紹介します。



『小学生から始められる対話型・発見型の人権啓発研修を目指して』

研究代表者 リハビリテーション学部作業療法学科 教授 田島 明子

◆ 共同研究者：[分担者]中谷高久(浜松市社会福祉協議会)、楠目昌弘(障害平等研修フォーラム)、高橋祥二(浜松市教育委員会)、笠原賢二(CILコネクト)、大川速巳(静岡県障がい者自立生活センター)

◆ 対象地域：浜松市

2015年度には、地域貢献事業研究費助成研究にて、障害平等研修(Disability Equality Training: DET)を浜松市内で行うことができました。DETは、イギリスで誕生した「障害の社会モデル」の考え方を一般市民に教育するための研修であり、差別解消法の推進、障害当事者がファシリテーターである、対話型・発見型学習、という3点が特徴です。

今年度は、DETの内容を社会福祉協議会が行う小学生向けの福祉出前講座で行うためのプログラム開発の検討を目的としました。上記メンバーと、実際にDETを小学生向けに行った障害当事者にも参加してもらい、福祉出前



講座を活用し、DETの内容を小学生に向けて行う際の配慮点などの検討を行いました。実施時間、内容構成、使用する教材、小学生とのコミュニケーション方法などが検討課題となりました。

2017年3月には浜松市内の小学生に対して出来上がったプログラムを、研究分担者の笠原と大川がファシリテーターとなり実施し、概ね研修の目的を達成できました。しかし、通常のDETでは少数派(障害者)と多数派(健常者)が逆転した社会を描いたビデオを上映しますが、今回はそれを行わなかったため、障害問題を自分の事として捉える視点の育成に至らなかった点は改善が必要です。今後、教材開発の工夫が必要であると考えます。



『部活動による傷害から高校生の心身を守る』

研究代表者 リハビリテーション学部理学療法学科 准教授 金原 一宏

◆ 共同研究者：[分担者]根地嶋誠(聖隷クリストファー大学)、有蘭信一(聖隷クリストファー大学)、吉本好延(聖隷クリストファー大学)、田中真希(聖隷クリストファー大学)、坂本飛鳥(聖隷クリストファー大学)

◆ 対象地域：浜松市、豊橋市

高校生の部活動は心身を鍛える場で今後の人生に強く影響します。しかし、心と身体のメンテナンスは日頃不十分で、多くの高校生が傷害を抱え、痛みを感じています。部活動での痛みは、競技パフォーマンスを低下させ、代償動作を無意識に強いられた新たな傷害を招きます。高校生が心身の痛みを感じずに部活動に励むには、スポーツ種目の運動特性を知り、適切なストレッチングや筋力トレーニングをする必要があります。さらに近年注目される痛み教育を受講し、適切な心身のメンテナンスを日々実施することです。

今回、運動部に所属する高校生を対象に、部活動による傷害から心身を守るため、理学療法学科の学生と教員が協力し、痛



み教育、身体測定、治療の実施、アドバイスを高校生一人ひとりに、年間を通して行いました。サポート後、高校生は身体の柔軟性が向上し、正しい痛みの捉え方から心身を日々メンテナンスする大切さを学び、運動パフォーマンス向上と痛みの改善に至りました。

今後は、競技パフォーマンスを上げるためのトレーニングをプログラムに加え、さらなる競技力向上を目指した心身のサポートを行う予定です。

社会福祉法人聖隷福祉事業団 認定看護管理者教育運営委員会 委員
社会福祉法人聖隷福祉事業団 特別養護老人ホーム和合愛光園 地域密着
介護老人福祉施設運営推進会議 委員
社会福祉法人みどりの樹 法人評議員
社会福祉法人七恵会 法人評議員
社会福祉法人昂会 監事
社会福祉法人和光会 第三者委員
社会福祉法人ひかりの園浜松市根洗学園 からだあそび教室 スーパーバイザー
社会福祉法人慶成会 運営推進会議 委員
社会福祉法人遠江学園 評議員

研究支援実施状況(2016年度)

第20回静岡県理学療法士学会 座長
静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会 県西部地区幼稚園・保育園担当者対象講習会 講師
静岡県看護協会 研修会 講師
社会福祉法人ひかりの園浜松市根洗学園 療育との専門的連携について 療育研究 講師
聖隷福祉事業団聖隷保育学会 講師
静岡県私立幼稚園振興協会 教育研究講座 講師
静岡県社会福祉士会 実践研究セミナー 講師

講師の派遣依頼は、保健福祉実践開発研究センターホームページの専用フォームをご利用ください。

大学ホームページ
<http://www.seirei.ac.jp/>

社会との連携 保健福祉実践開発研究センター 講師・委員等の派遣

2017年度

公開講座のご案内

当センターでは市民の方を対象とした講座を開催しています。詳細は大学ホームページに順次掲載します。インターネットから、またはFAXでお申し込みください。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

テーマ	介護福祉実践とスピリチュアルケア ～介護福祉の奥深さ、幅広さ、魅力を再発見する～
日時	2017年7月29日（土）13：00～15：00
講師	佐々木炎氏（NPO法人ホッとスペース中原代表理事、主任介護支援専門員、牧師）
対象	一般の方、学生、福祉の専門職の方
定員	100名
場所	聖隷クリストファー大学
テーマ	「がんとともに、その人らしく生きる」を支える
日時	2017年11月18日（土）13：30～15：30
講師	本学看護学部 准教授 井上菜穂美
シンポジスト	大木純子氏（聖隷三方原病院 がん看護専門看護師） 島田綾子氏（聖隷浜松病院 社会福祉士） 木村幸子氏（訪問看護ステーション三方原 緩和ケア認定看護師）
対象	一般の方
定員	100名
場所	聖隷クリストファー大学
テーマ	老化と自動車運転（Web公開講座）
日時	2017年8月から順次公開予定
講師	本学リハビリテーション学部 教授 佐藤順子、准教授 吉本好延、助教 建木健
対象	一般の方
場所	聖隷クリストファー大学ホームページ上にて公開

インターネットからの参加申込み

大学ホームページ ▶ 社会との連携 ▶ 保健福祉実践開発研究センター ▶ 公開セミナー・市民公開講座
<http://www.seirei.ac.jp/>

画面の案内に従って必要情報を入力後、送信してください。

FAXからの参加申込み

FAX:053-439-1406 氏名(フリガナ)・住所・電話番号・FAX番号・職業(勤務先)・申込講座名をお知らせください。

2017年度地域貢献事業研究費 採択一覧

本学周辺地域の保健医療福祉分野に貢献する事業研究を対象として『地域貢献事業研究費』を配分しています。2017年度は、2017年2月に公募、4月に審査を行い、2件が採択されました。

研究課題名	研究代表者	対象地域
重症心身障害者や幼児教育現場における芸術療育 ・療法の実践事例研究	鈴木光男 （社会福祉学部 こども教育福祉学科教授）	浜松市・磐田市を中心とした 静岡県西部地域
ことばの教室担当教諭への専門的研修が指導に与える効果	柴本 勇 （リハビリテーション学部 言語聴覚学科教授）	浜松市

【地域と歩む】保健福祉実践開発研究センター ニュースレター 第9号

発行

聖隷クリストファー大学
保健福祉実践開発研究センター

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL:053-439-1400 FAX:053-439-1406 Eメール:health-science@seirei.ac.jp

介護福祉実践と スピリチュアルケア

～介護福祉の奥深さ、幅広さ、魅力を再発見する～

超高齢社会日本において、介護福祉の実践は、専門職だけが行うものではなく、地域において、人々がお互いに支え合いながら実践していく必要があります。介護福祉の実践において最も大切なことは、相手の苦しみを聴き、自分を超えて（相手の立場に立って）その痛みを理解しようとする姿勢です。そのような介護福祉実践を行う上で、スピリチュアルケアの視点は私たちに重要なメッセージを与えてくれます。

開催日時

2017年

7月29日 土

13:00～15:00
(受付・開場 12:30)

会場 聖隷クリストファー大学 1号館7階 1701大教室

対象 一般の方、学生、福祉の専門職の方

定員 100名

受講
無料

講師

佐々木 炎 氏

講師紹介

NPO法人ホッとスペース中原代表理事、(社福)牧ノ原やまばと学園理事、(社福)愛隣会理事、介護福祉士養成大学・専門学校講師、主任介護支援専門員、牧師

青春時代、不良少年として荒れた日々を過ごしていたが、聖隷厚生園で暮らすある利用者との出会いや様々な人との出会い（受けとめられ、支えられた体験）が今の自分の存在をつくってくれた。現在は牧師として、NPO法人理事長として、元当事者として、社会の誰もが排除されない「包摂」の場づくりを、当事者と共に模索している。

主催：聖隷クリストファー大学保健福祉実践開発研究センター

後援：静岡県、浜松市、静岡県介護福祉士会、静岡県社会福祉士会、静岡県社会福祉協議会、浜松市社会福祉協議会

申込
方法

- インターネットの場合…聖隷クリストファー大学ホームページ [http://www.seirei.ac.jp/] → 公開講座から
- FAXの場合 ……聖隷クリストファー大学保健福祉実践開発研究センター (053-439-1406) まで
(裏面の申込用紙をご利用ください)

○氏名(ふりがな) ○住所 ○電話番号 ○FAX番号 ○PCメールアドレス ○職業 ○申込み講座名をお知らせください。

申込
締切

2017年
7/17 (月・祝)

※申込締切日以降に受講票を送付いたしますので、当日お持ち下さい。



聖隷クリストファー大学

看護学部／社会福祉学部／リハビリテーション学部／助産学専攻科
大学院博士前期課程・博士後期課程 看護学研究科／リハビリテーション科学研究科／社会福祉学研究科

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453

TEL. 053-439-1400 FAX. 053-439-1406

http://www.seirei.ac.jp

交通のご案内

●バスでお越しの方

JR浜松駅北口バスターミナル15番ポール「聖隷三方原病院経由気賀・三ヶ日行」乗車
「聖隷三方原病院」下車徒歩約3分。

●お車でお越しの方

聖隷クリストファー大学第1駐車場をご利用下さい。

「がんとともに、 その人らしく生きる」 を支える

受講
無料

「がん」の罹患イコール死の時代ではなくなり、「がん」という病を抱えながら生きる時代となりました。「がんとともに、その人らしく生きる」を支えるために大切なことを、専門看護師やMSW(医療ソーシャルワーカー)の方々の日々の活動の中から語っていただきます。

2017
11月18日(土)

主催 聖隷クリストファー大学保健福祉実践開発研究センター

会場 聖隷クリストファー大学 1号館 1701大教室

対象 一般市民の方

開催日時

13:30~16:30

定員 100名



講師

井上 菜穂美

聖隷クリストファー大学
看護学部
准教授

講演 日本のがん医療とがん患者支援の現状 (1時間)

看護大学卒業後、県外の医療機関で看護師として勤務、2006年にがん看護専門看護師の認定を受ける。2007年から大学教員となり、がん看護に関わる教育・研究に携わっている。現在は、がん患者さんの在宅療養生活を支援するための遠隔看護に関する研究に取り組んでいる。

シンポジウム 「がんとともに、その人らしく生きる」を支えるために (各20分、質疑応答30分)



シンポジスト①

大木 純子氏

聖隷三方原病院
看護相談室
がん看護専門看護師

看護大学卒業後、看護師として働く傍ら、大学院のCNS(専門看護師)課程で学び、2009年にがん看護専門看護師の認定を受ける。現在、看護相談室にて日々がん患者さんの様々な相談に対応している。



シンポジスト②

島田 綾子氏

聖隷浜松病院がん
相談支援センター
社会福祉士
精神保健福祉士
認定がん専門相談員

大学卒業後、県外の医療機関でMSWとして勤務、2007年より現職。現在は主にがん相談員として、がん患者・ご家族の支援、地域におけるがん啓発並びにネットワーク作り等に取り組んでいる。



シンポジスト③

木村 幸子氏

訪問看護ステーション三方原
緩和ケア認定看護師

看護学校卒業後、病院の看護師を経た後に、在宅で過ごす方のお手伝いがしたいと思い訪問看護師として働く。在宅でも専門的な知識が必要と考え、2016年に緩和ケア認定看護師の認定を受ける。現在も訪問看護師としてがんと共に在宅で過ごすための支援をしている。

申込
方法

- インターネットの場合…聖隷クリストファー大学ホームページ [http://www.seirei.ac.jp/] → 公開講座から
- FAXの場合 ……聖隷クリストファー大学保健福祉実践開発研究センター (053-439-1406) まで (裏面の申込用紙をご利用ください)

○氏名(ふりがな) ○住所 ○電話番号 ○FAX番号 ○PCメールアドレス ○職業 ○申込み講座名をお知らせください。

申込
締切

2017年
11/10(金)

※申込締切日以降に受講票を送付いたしますので、当日お持ち下さい。



聖隷クリストファー大学

看護学部/社会福祉学部/リハビリテーション学部/助産学専攻科
大学院博士前期課程・博士後期課程 看護学研究科/リハビリテーション科学研究科/社会福祉学研究科

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453

TEL. 053-439-1400 FAX. 053-439-1406

http://www.seirei.ac.jp

交通のご案内

●バスでお越しの方

JR浜松駅北口バスターミナル15番ポール「聖隷三方原病院経由気賀・三ヶ日行」乗車
「聖隷三方原病院」下車徒歩約3分。

●お車で越しの方

聖隷クリストファー大学第1駐車場をご利用下さい。

聖隷クリストファー大学ホームページにて公開中。
PC、スマートフォン等でご視聴ください。

加齢と

視聴無料
申込不要

自動車運転

本講座では、
昨今のニュースで頻繁に報道される
高齢ドライバーの自動車運転について
3回の講座を通して考えていきます。

公開期間
2018年1月末まで
(予定)



公開ページURL

<https://www.seirei.ac.jp/news/detail.php?CN=212070>

スマートフォン等をご利用の場合、一定期間に定められた通信量以上の通信を行うと、ご契約の各キャリア・プランにおいて通信速度の制限を実施される可能性があります。

第1回

法制度と自動車運転

高齢ドライバーの運転免許更新について学びます。

講師 リハビリテーション学部作業療法学科助教 建木 健

第1回 建木 健 助教



第2回

身体機能と自動車運転

加齢に伴う身体の変化と自動車運転に必要な身体機能について学びます。

講師 リハビリテーション学部理学療法学科准教授 吉本 好延

第2回 吉本 好延 准教授



第3回

認知機能と自動車運転

加齢に伴い変化する注意機能や判断機能について学びます。

講師 リハビリテーション学部言語聴覚学科教授 佐藤 順子

第3回 佐藤 順子 教授



聖隷クリストファー大学

看護学部／社会福祉学部／リハビリテーション学部／助産学専攻科／
大学院博士前期課程・博士後期課程 看護学研究科／リハビリテーション科学研究科／社会福祉学研究科

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453

TEL. 053-439-1400 FAX. 053-439-1406

<http://www.seirei.ac.jp>



聖隷クリスティー大学 保健福祉実践開発研究センター 地域貢献事業研究報告会

2016年度に実施された
地域貢献事業研究
4件のポスター報告
とプレゼンテーション
を行います！



ピアノ ミニコンサート

10:40～11:00

11:20～11:40

演奏：店村 真知子 氏（元本学教員）

スタンブラリーのポイント
にもなっています。
ぜひ立ち寄ってね！

時間：10:00～15:00

場所：1号館2階 1222・1223演習室

研究課題	研究代表者
10:20～ ベッドサイドの環境デザインの改善 ～患者の入院生活の質を高める廊下の距離表示作成～	炭谷 正太郎 (看護学部 准教授)
10:30～ 自治体と連携した危機管理体制の構築 —災害時に住民同士が救護活動を主体的 に行っていくための地域づくり—	若杉 早苗 (看護学部 助教)
11:00～ 小学生（高学年）を想定したわかりやすい DET（Disability Equality Training:障害平 等研修）のプログラム開発	田島 明子 (リハビリテーション学部 教授)
11:10～ 部活動を実施する高校生の心と身体を支 えるサポート体制の構築に関する研究	金原 一宏 (リハビリテーション学部 准教授)

※ポスター展示を見ながら休憩スペースとしてもご利用いただけます。
お茶・お菓子もご自由どうぞ！

2017 年度
地域貢献事業研究 報告書

ことばの教室担当教諭への専門的研修が指導に与える効果

柴本勇^{*1)}、今明薫²⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学、²⁾浜松市教育委員会

1 目的

浜松市には、小学校が97校、中学校49校がある。このうち10校に、言語に関する発達支援を行う教室を設置している。浜松市の場合、発達支援として「幼児ことばの教室」と「通級指導教室（言語）」の2つがあり、前者は就学前幼児を対象とし、後者は学童児童を対象としている。幼児ことばの教室と通級指導教室（言語）を、通常「ことばの教室」として表し、各都道府県や市町村では支援拠点学校に教室が設置されている。

幼児ことばの教室は、1週間に1回程度小学校に設置された専門教室に通い、専任教諭から個別指導（45分程度）を受けるものである。個別指導は、対象児の状態に応じ、個別に言語指導、発音指導を実施する。必要に応じて、集団（グループ）指導も実施する。個別指導以外には、家庭との連携を図り、指導の成果をあげるために、個別面談や保護者研修会も実施している。対象は、①ことばの発達が遅い、②構音が正確でない、③流暢に話せない児である。

通級指導教室（言語）は、1週間に1回程度決められた時間に通級指導教室に通い、45分程度の指導を受ける。指導は、専任教諭によって、個別指導と保護者支援が行われる。個別指導では、個々の課題に応じた指導で、必要に応じて集団（グループ）指導も取り入れられている。また、家庭との連携を図りながら個別指導効果を高める活動もしている。対象は、①ことばの発達が遅い、②構音が正確でない、③流暢に話せない児である。

幼児ことばの教室、通級指導教室（言語）共に、対象や運営は同じであるが、言語は幼児期と学童期では獲得すべき内容や目標が異なるため、浜松市ではそれぞれの専門性を重視し別々の運営をしている。

更に、幼児ことばの教室や通級指導教室（言語）を担当する教諭は、就学相談や就学判定にも関わっており、専門性の高い活動を実施している。

しかし、浜松市においては通級指導教室（言語）の場合は専任教諭を常勤雇用しているものの、幼児ことばの教室の担当教諭は非常勤でかつ5年間の有期雇用となっている課題がある。同時に、「言語聴覚障害」を専門としてきた教諭が少なく、ことばの教室の担当教諭は専任となった段階で独自に学び始めるなど各自の努力に委ねられていることが多い。更には、研修会が開催されてはいるもの、系統的専門研修は少なく現状では専門教育を十分に受けられる環境が乏しい。各校の専任教員数は数名であり、専門教育の機会があったとしても、平日では全員受講できないという側面もある。

本研究では、現在ことばの教室を担当する専任教諭が抱える課題である、系統的専門研修を受ける機会を与えること、加えて系統的専門研修がそれぞれの指導に与える効果について検討した。

本研究の特色は、これまで個々の努力に任せられていた学修を専門的かつ段階的に積み上げることで、将来の浜松市教育委員会の研修や本学が専門研修を提供する際の、基礎的データを得ることができる点である。

2 方法

浜松市内の幼児ことばの教室、通級指導教室（言語）で、言語指導をしている教諭を対象とした。以下に示す5回の系統的専門研修を実施し、研修受講前後の指導方法や指導内容について調査した。

①系統的専門研修内容

第1回：2018年1月20日（土）13：30～15：30

『子どもの言語・コミュニケーションの発達（1）』

「言語やコミュニケーションとは」、「言語コミュニケーション発達の基盤」など典型発達過程を前言語期まで講義した。

第2回：2018年2月3日（土）13：30～15：30

『子どもの言語・コミュニケーションの発達（2）』

学童期の発達までを講義した。

第3回：2018年2月17日（土）13：30～15：30

『言語発達障害の種類や様相』

子どもの典型発達を踏まえた上で、言語発達障害について講義した。

第4回：2018年3月3日（土）13：30～15：30

『言語発達障害児の評価・支援（1）』

評価について、支援について、それぞれの基本的考えや臨床での手順といった基礎的な内容を講義した。

第5回：2018年3月10日（土）13：30～15：30

『言語発達障害児の評価・支援（2）』

実際の事例や教科書に出ている事例などを通じて、評価や支援方法について講義した。

②研修講師

遠藤重典氏（言語聴覚士：児童発達支援センターほうあんうみ、小田原市）

a. 略歴

- ・東京学芸大学教育学部特殊教育学科言語障害児教育課程卒業
- ・東京学芸大学大学院教育学研究科総合教育開発専攻教育カウンセリングコース修了（教育学修士）
- ・国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター講師
- ・国際医療福祉大学 講師を経て現在に至る

b. 専門

- ・発達障害児の言語・コミュニケーション指導
- ・子どもの発達促進を目指した関連職種との連携

③指導に関する調査

- a. 研修の重要性に関する調査
- b. 指導方法に関する意識調査
- c. 指導上の悩みの相談相手に関する調査
- d. 指導上必要なことに関する調査
- e. 言語聴覚士との活動に関する調査
- f. 浜松市教育委員会との活動に関する調査

3 結果

①専門的研修

a. 参加人数

第1回：46名、第2回：35名、第3回：32名、第4回：38名、第5回：30名

b. 研修内容

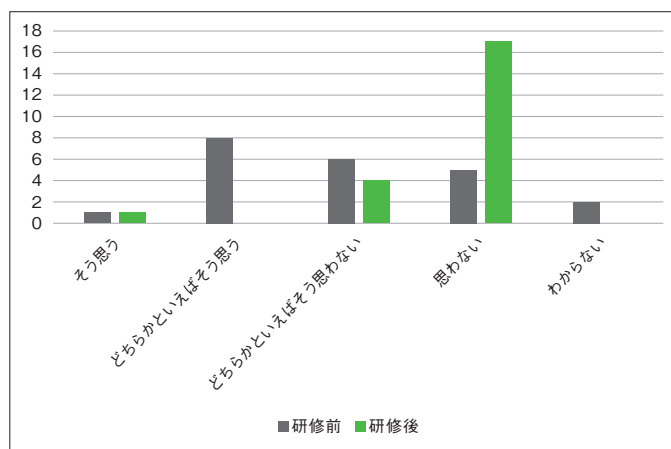
当初計画したとおりの内容を実施した。毎回、多くの質問等が挙がり活発な議論が実施された。



【言語発達障害研修会の様子：聖隷クリストファー大学】

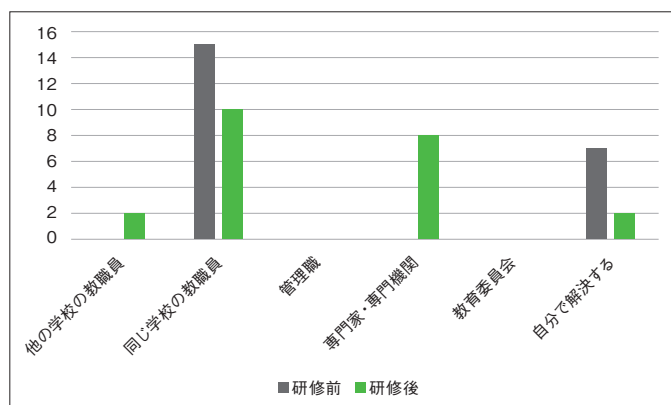
②指導に関する調査 (N = 22)

a. 専門研修



【Q. 専門的研修を受けなくても指導に支障はないですか？】

c. 指導上の相談相手



b. 指導方法に関する意識調査

【研修前】上位4つ

- ・十分な指導準備をする
- ・熱意を持って取り組む
- ・子どもに愛情を持って取り組む
- ・保護者と良好な関係を築く

【研修後】上位4つ

- ・熱意を持って取り組む
- ・教員として必要な経験を積む
- ・子どもをよく理解する
- ・専門教員として自信をもって職務にあたる

d. 指導上必要なこと

【研修前】上位4つ

- ・自身への専門的サポート
- ・勉強会の開催
- ・保護者への指導法
- ・児童へのチューター

【研修後】上位3つ

- ・自身への専門的サポート
- ・検討会の開催
- ・指導機器（用具）の充実
- ・言語発達も含めたトータルな指導

e. 言語聴覚士との活動

- ・ことばの教室への定期的訪問指導の実現
- ・専門的相談窓口の開設
- ・医療と教育の連携（同じお子さんを指導することが多い）
- ・コミュニケーションの専門家として地域の子どもたちへの積極的支援を期待している
- ・具体的指導方法の支援・相談・教授
- ・定期的な事例検討会の開催
- ・ことばの教室教諭と言語聴覚士の協力体制の構築
- ・異常構音の聞き分けについてのチュートリアル
- ・教育分野で行えるスクリーニングテストの開発

f. 浜松市教育委員会との活動

- ・発達全体を捉える必要性を感じた。専門研修の内容を再検討
- ・研修回数の増加（今回のような5回シリーズの系統的研修）
- ・事例検討会の増加と他職種の参画
- ・ことばの教室設置校の増加
- ・コミュニケーションや言語に関する総合的相談センターの設置
- ・系統的初期研修の新設と定例化

4 考察・結論

現在浜松市においては就学前や修学後に「ことばの障害」を専門に評価・治療する医療・福祉施設が少ないのが現状である。そのため、小学校に設置されていることばの教室は、通級する児の教育や生活、コミュニケーションを保障する重要な役割を持つ。一般的に、ことばの障害で通級指導を受ける児は増加の一途を辿っていることが指摘されている。ことばの障害を抱える児の中には、「いじめ」や「不登校」に至るケースがあり、早期からの指導や連携の重要性が指摘されている。そのような状況にも関わらず、経験の少ない教諭が言語障害の通級指導を担当するケースがあり、担当となった教諭が不安を抱くこともある。

本研究では、浜松市内の小中学校に勤務する教諭に、「ことばの障害」及びその指導の原則を学んでもらうことが自身の指導にどのような効果や影響をもたらしたかを調査した。全5回の系統的専門研修を行いその前後での指導等に関する調査を実施した。その結果、専門研修の有用性については、受講前には専門研修を受けなくても指導に支障がないと考えていた教諭が、研修後に研修を受けなければ指導に支障があると答えるなど、心境が変化した人数が増加した。また、自身の指導方法については、子どもや保護者との関係性を重要視していたところから、しっかり子どもの状況を理解した上で職務に当たることが重要であるとの考えに変化するケースが多かった。指導上の相談相手については、教諭同士や自身で解決する考え方から、専門職・専門機関や他学校の教諭にも相談しようという考え方へと変化した。指導上必要なことについては、自身のレベルアップからより多角的な視点や指導器具の充実など対象児にとって重要なことは何かという視点へと変化した。言語聴覚士に望むことは、互いの連携の重要性を挙げる教諭が多くなり、浜松市教育委員会へは研修の充実や相談センターの設置などを期待する声が高まった。

今回、浜松市においてことばの教室の教諭向けの系統的研修は初めてであった。担当教諭は40名強であるが、毎回の研修会には30名以上参加を得た。高い関心の裏には、系統的専門研修の潜在的ニーズがあると考えられた。

本地域貢献事業研究の実施から、言語聴覚士の専門性をよりことばの教室の教諭に理解してもらうことができ、またことばの教室の教諭の現状を知ることができた。今後も系統的研修の継続を望む意見が多く、地域の子どもを支える活動として互いに協力して系統的研修の継続が望まれる。将来的には、浜松市教育委員会に言語聴覚士が雇用され、常に学校レベルで適切なサポートができる体制を構築することが期待される。

5 学会発表・論文発表の状況

2018年度に本学紀要に投稿予定である。

2017 年度保健福祉実践開発研究センター運営会議
委員一覧

センター長	大場 義貴	社会福祉学部社会福祉学科 准教授
副センター長	入江 拓	看護学部 教授
委員	入江 晶子	看護学部 准教授
委員	井上 菜穂美	看護学部 准教授
委員	落合 克能	社会福祉学部介護福祉学科 助教
委員	石津 希代子	リハビリテーション学部言語聴覚学科 准教授
委員	建木 健	リハビリテーション学部作業療法学科 助教

2018 年度保健福祉実践開発研究センター運営会議
委員一覧

センター長	大場 義貴	社会福祉学部社会福祉学科 准教授
副センター長	入江 拓	看護学部 教授
委員	入江 晶子	看護学部 准教授
委員	井上 菜穂美	看護学部 准教授
委員	落合 克能	社会福祉学部介護福祉学科 助教
委員	石津 希代子	リハビリテーション学部言語聴覚学科 准教授
委員	建木 健	リハビリテーション学部作業療法学科 助教

保健福祉実践開発研究センター年報 第9号(2017)

2018年11月1日発行

編集 聖隷クリストファー大学 保健福祉実践開発研究センター
発行 聖隷クリストファー大学
〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-439-1400 FAX 053-439-1406
印刷 日興美術株式会社

地域と歩む

聖隷クリストファー大学
保健福祉実践開発研究センター

Community-Based Practice and
Research Center for Health and Welfare